

3. 本事業の公開と共有によって、それぞれに共通する課題や可能性を見出すとともに、美術館運営に対して持続的に発展が見出せるよう目指す。

【目標の達成状況】

・収蔵庫の整備

収蔵用棚の新規設置、所蔵作品の梱包（タブロー、ドロワー、習作など仕分けて保存）

〔作品収蔵庫〕



旧収蔵庫



整備前の作品収蔵庫



整備後の作品収蔵庫



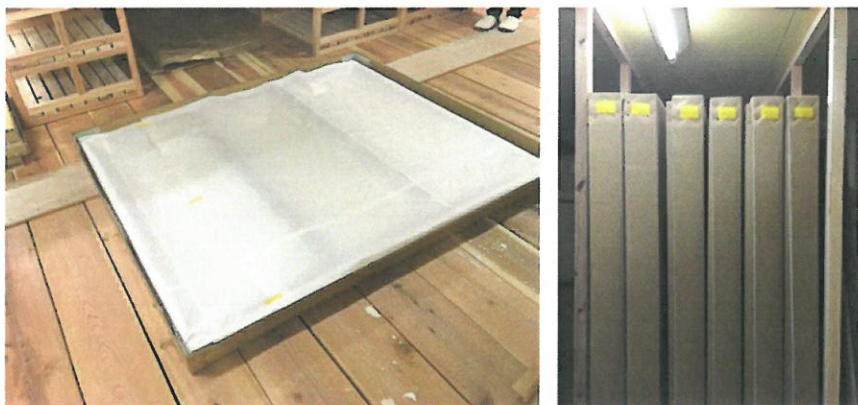
収蔵庫入口



画用紙作品収蔵棚



タブロー作品収蔵棚



タブロー作品は作品表面保護と酸性化を防ぐ目的で、中性紙で包んだ。  
100号・80号サイズのタブロー作品は中性紙に包み、段ボールで出来た保存箱に入れて保管。



画用紙作品は画用紙の酸性化を防ぐ中性紙を合紙に用い、中性紙でできた保存箱に入れ替えた。

#### ・デジタルアーカイブの設計

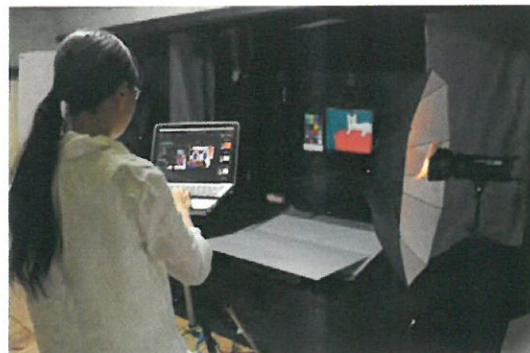
作品の写真撮影：タブロー752点、ドローイング8624点

※ 約9000点は完了しなかったが、京都市立芸術大学の主催事業として撮影作業を継続する。

#### 【作品撮影の様子】



京都市立芸術大学での画用紙作品撮影の様子。撮影セットが2つ用意された。  
担当教員は、中原浩大教授、石原友明教授、赤松玉女教授。

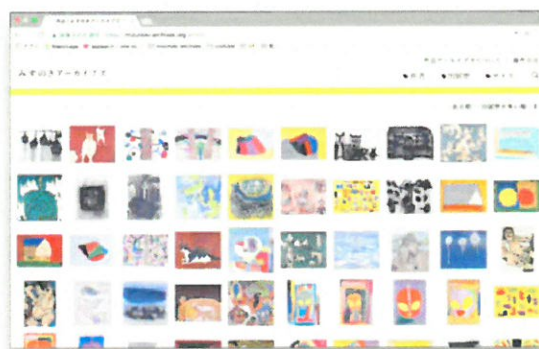


みずのきの新収蔵庫内にセットを組んで行ったタブロー作品の撮影。  
撮影は、写真家の麥生田兵吾氏と金サジ氏が担った。

- ・ デジタルアーカイブの編集ページのメタデータを整理  
アドバイザー：須之内元洋
- ・ ユーザーインターフェースの改善  
トップ画面の更新、作品ページの表示順の変更、ボタン変更：須之内元洋  
トップ画面デザイン：菊地敦己



デザインを一新したトップ画面



細かな修正を反映させた作品ページ